

母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—

- 1 大阪母子医療センターを紹介する書籍のご案内
- 2 がんばり屋さん
- 3 食物アレルギーについて、イベント報告
- 4 子ども向け“からだを知ろうセミナー”を開催しています
クラウドファンディングにご協力ありがとうございました



大阪母子医療センターを紹介する書籍

「こどもと妊婦の病気・治療がわかる本—大阪母子医療センターの今」のご案内

このたび、大阪母子医療センターの診療内容を詳しくご紹介する「こどもと妊婦の病気・治療がわかる本—大阪母子医療センターの今」という医療読本を発行（1月8日付）しました。執筆者は大阪母子医療センターに勤務し、医療最前線で活躍中の医師、看護師、コメディカル等の職員で、これまでに出版されている医学書や、医師・看護師向けの教科書ではなく、一般の方が知りたいと思う「こどもと妊婦の病気と治療」についてわかりやすく解説しています。

本の内容を簡単にご紹介させていただきます。5つのパートに分かれています。

パート1 チームで取り組む・地域との連携 ここでは、当センターの最大の強みである複数の診療科間の連携、職員間の連携、地域医療機関との連携を生かした活動について述べています。

パート2 最先端・高度な医療 ここでは、当センターの最先端・高度な医療をいくつか取り上げて紹介しています。

パート3 母子医療センターの得意な診療 ここでは、各診療科が得意とする代表的な診療を1つか2つ取り上げて解説しています。

パート4 寄り添う ここでは、患者さんとその家族の気持ちにできるだけ寄り添えるように、職員が努力している事柄について例を挙げました。

パート5 病院を支える部門 ここでは、医師、看護師以外のさまざまな職種の職員が、病院の診療とスムーズな運営を支え、患者さんとその家族のために働いている様子を紹介しています。

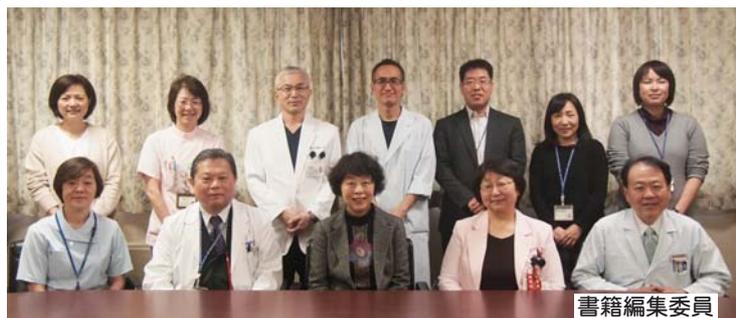
パート5の後ろに、大阪母子医療センター職員が書いた医療者のエッセー5篇と、この「母と子のにわ」に以前掲載された「がんばり屋さん」の中から患者さん・家族からのメッセージ4編を掲載しています。



誌面に限りがありますので、すべての病気や診療について述べることはできませんでしたが、328ページのなかに職員一同の精一杯の気持ちを込めました。この本が、当センターの診療や治療について皆様の理解をより一層深めたり、疑問点の解決・納得の一助になればいいと願っております。また、各診療科の取り組みや、医師、看護師、その他多くの職種の職員が患者さんや家族のために、日夜努力している、

あまり知られていない医療現場の様子に興味を持っていただいて、当センターに対して、これまで以上に身近に感じていただけたら幸いです。

近隣の書店や、院内のコンビニ（セブンイレブン）で発売していますので、ぜひ一度手に取ってご覧いただけると嬉しいです。ネットショップでも取り扱っております。



書籍編集委員

(病院長 書籍編集委員長 木内 恵子)

K.H.くん

「ぼくは、2005年に母子医療センターで生まれました。『母子医療センターで入院していたこと覚えている？“がんばり屋さん”に少し書いてみて』と母親に言われましたが、入院では静岡や東京の病院で長い間入院していたことは覚えています。母子医療センターでの入院はよく覚えていません。外来診察にいくときの先生のお部屋やアトリウム、セブンイレブンくらいを覚えているだけです。」

息子は、どうやら母子医療センターでの入院のことはあまり記憶にないようです。しんどかった時のことだからかもしれません。また、この「がんばり屋さん」を書けるくらいの気持ちはあっても実際に文章として表現することは大変ハードルがあります。それは、神経疾患によるもの、また、その合併症のてんかんによる知的障害のためです。

母子医療センターで出産した次の日、大勢のお医者さんが病室にいらしてくださり、神妙な顔で病気のことをご説明くださいました。その後も、産後の状況や息子の病状を尋ねに多くの助産師さん、看護師さんが心配そうに来てくださいました。今も、その情景を一枚一枚の写真のような映像として鮮明に記憶によみがえります。保健師さんは将来の生活やこれからどうやって過ごしていったらよいかというようなことを具体的な情報をもって、笑顔でお話ししてくださいました。実際の生活を具体的に考えることができました。

すぐに手術のために転院し、手術の次の日から重積発作がおこり、息子にとっててんかんと戦いの日々が始まりました。今から思うと親がそう思っているだけで、息子は常にてんかんとともに生きながら、子どもとしての成長をしていたのだと思います。それに親として気づくことができたのは、2年前に半分の脳をなくす大きな手術をして、それが幸い成功して発作がなくなってからです。今まで、ゆっくりだったり、食欲がなかったり、朝起きてこなかったり、つい、叱っていたことにとっても反省させられました。発作のためにそこまで影響していたことが分からなかったのです。息子に申し訳ないことをしていました。こうまで発作が影響していたのかと驚くとともに、発作がおこらないようにとセーブしていたこれまでの生活を見直し、これからは、通常の子どもの経験することをできる限りたくさんさせてあげないと、と心に決めた瞬間でした。今は、生まれ変わって2年目、誕生日では12歳と2歳を同時に祝っています。発作がある中でも、学校にいき、遊び、宿題をし、デイにいき、公文にいき、ダンスをし、プールにいきと様々なことに常に頑張ってきた息子です。発作がなくなった今、そのことは、どれだけ頑張っていたことだったのかということをお知らせします。

今は、半分の脳ですので認知機能や高次脳機能障害が目立ってきて、それらによる生活上の問題、片麻痺や知的障害、目の問題などがあります。でも、福祉の力を借りながらも自立を目指して、たとえ僅かであっても社会に貢献し、趣味をもち、いきいきと生きていってくれるような智慧や人間性を持ちあわせてくれたらなと願っています。彼は、「〇〇になりたい！！そのために頑張る」と相変わらずがんばり屋さんで、日々、多くの方々に助けられながら、多くの方々に影響を受けて、感じたり考えたりして、楽しくすごしています。

何度も入院をして、そのたびにお医者さん、看護師さん、ホスピタルプレイ士さん、保育士さん、病室に来て下さる掃除のおばさん、多くの方々に助けていただきました。本当にありがとうございます。今後、どのようなことが起こるか分からないという覚悟をもって毎日を過ごしつつも、先生や看護師さんらに入院でお世話にならないように、元気な姿を報告し続けることができるようにと心から願っています。



がんばり屋さんのコーナーでは、登場して下さる方を募集しています。母子医療センターで治療を受け、現在各方面で頑張っている方をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。詳しいことは、母子保健調査室までお問合せください。

電話：0725-56-1220（内線 3241）

E-mail：kikakushi@mch.pref.osaka.jp

♡ 食物アレルギーについて

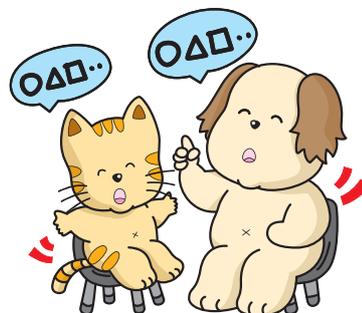
食物アレルギーの子どもが増えています。乳児では多く見積もって 10 人に 1 人といわれます。原因食品は多様ですが、鶏卵、牛乳、小麦の三つが多くをしめており三大アレルゲンとして知られています。そば、ピーナツも強いアレルギー症状をきたすものとして知られていますが、血液検査の結果だけで念のために除去（食べないようにする事）されている例が多いのは気になることです。ナッツ類ではピーナツに加えてカシューナッツやクルミで強いアレルギーの子がいるので注意が必要です。えび、かには成人では最も多い原因ですが乳幼児には多くありません。

食物アレルギーで難しいのは、血液検査だけでは正確な診断ができない事です。病院で血液検査をすればなんでもわかると誤解されがちですが、血液検査で数値が高くても食べられる子はいます、一方で数値は低いのに食べられない子もいます。血液検査は参考にはなりますが、万能な物ではないのです。血液検査で数値がでた食品をすべて除去したり、また血液検査の数値がなかなか良くならないからといって漠然と何年も除去を継続している例をよくみかけます。不要な除去食は可能な限り減らす、除去食の継続の必要性を定期的に見直す事が大切です。

最近、食物アレルギーによる死亡例や後遺症をきたした重大な事例がニュースになりました。子どもが食物アレルギーをもっている、特に重症な場合ではわずかな可能性であっても不安に感じると思います。しかし過度に心配しすぎるのもよくありません。

食物アレルギーがある場合の対応の基本は原因食物の除去ですが、最近は少しずつでも食べているほうが食物アレルギーになりにくい、またなおやすいという事がいわれています。十分な量は食べられなくても少量であれば問題ない場合は、食べられる範囲では食べる事をおすすめします。念のため食べないようにしておくという対応はマイナスに働いている可能性があります。一方で無理して食べようとしすぎて強いアレルギー症状を引き起こしたり、しんどい症状を繰り返してしまうと子どもがその食べ物を嫌いになってしまうリスクもあります。何事も適度な対応が大切です。

重症な食物アレルギーで幼児期までに治らなかった子どもでは食べられる最小量を確認したうえで、少量から計画的に食べ、段階的に増量していく免疫療法が試みられています。しかしまだ確立した治療法とはいえません。安易に行う事は危険ですので食物アレルギーに詳しい医師の指導のもとで行ってください。食物アレルギーは日々の食生活に関わる大きな問題です。正しく理解して常に少しでも食べられる可能性を探りながら、また日々の安全、栄養に配慮しつつ上手につきあっていきましょう。



(呼吸器・アレルギー科 副部長 錦戸 知喜)

イベント報告



2017. 12. 11 (月)

フィンランドから「サンタクロース財団」公認サンタクロースが来てくれました。



ゲストの阪神タイガース
北條史也選手

2017. 12. 22 (金)

センタークリスマス会を開催しました。



ゲストのくまモン



子ども向け“からだを知ろうセミナー”を開催しています

子どもたちの外来受診が増える夏休みや春休みを利用して、“からだを知ろうセミナー”を2016年度から開催しています。小学生以上を対象に、体や心のしくみに興味と関心をもってもらえるよう絵や模型を使って、わかりやすく、楽しく学べるように工夫しました。毎回10名前後の子どもたちが参加しています。講師は医師、看護師、栄養士など、母子医療センターのスタッフが担当します。

このセミナーは、看護師と心理士で2015年から活動を開始した“ここからの会”が企画しています。“からだ”と一緒に“こころ”も成長して欲しいという想いを込めて“ここからの会”と名付けました。長い期間、治療を受ける子どもたちが、年齢に合わせて病気や治療を理解し、自分の体と心を大切に思い、成長とともに自分で健康管理ができるようになることは、将来の自立へとつながります。

セミナー以外にも看護外来として、10歳前後の子どもを対象とする『1/2(2分の1)成人式外来』と、中学生以上を対象とした『ここからステップ外来』を2016年11月にオープンしました。看護師が子どもとゆっくり話をし、病気に対する理解や気持ちを確認し、医師や心理士と相談しながら、子どもたちの成長をサポートしています。ご希望がありましたら、小児外来看護師または患者支援センターまでお声かけください。

2018年“春休みからだを知ろうセミナー”は、「脳のふしぎ」「おはだのこと・きずのであて」「からだをつくる栄養のお話」、「元気いっぱいにすこすこツ」の4つのテーマを予定しています。事前申し込みは要りませんので、当日、総合受付カウンター横“ぼらんていあはうす”まで、ご家族も一緒にお気軽にお立ち寄りください。



(看護部 副看護部長 古川 弘美)



春休みからだを知ろう セミナー2018

■ 時間：14:00～14:30 ■ 対象：小学生以上 (先着20名まで)
■ 場所：母子医療センター1階 ぼらんていあはうす

3 / 23 (金)	「脳のふしぎ」	小児神経科	柳原 先生
3 / 26 (月)・27 (火)	「おはだのこと・きずのであて」	皮膚・排泄ケア認定看護師	松尾 先生
3 / 28 (水)・30 (金)	「からだをつくる栄養のお話」	管理栄養士	麻原 先生
3 / 29 (木)	「元気いっぱいにすこすこツ」	子どものこころの診療科	平山 先生



クラウドファンディングにご協力ありがとうございました



平成29年度にドクターズカーを更新するのに合わせて、新生児搬送用の専用保育器購入資金をクラウドファンディングを通して募りました。クラウドファンディングというのは、ある目的のためにお金を必要とする人がインターネット上で寄付を募り、共感した不特定多数の人が出資し支援するというインターネットを介した資金調達の仕組みです。目標金額300万円、9月12日～10月27日を受付期間としました。その結果、多くの人から賛同を得られ、我々の予想を超える、392名の方から総額10,036,000円が寄せられました。また、寄付と同時に、母子医療センターにお世話になったという感謝の言葉や温かいメッセージ、励ましの言葉をいただき、感動し、多くの人に支えられているという思いを強くしました。手数料を差し引いた820万円を保育器購入に充てることができます。折角の寄付金をすべて保育器購入に充てるため、母子医療センターより資金を追加して4台購入させていただくことになりました。全国から寄せられた温かいこころざしに感謝申し上げます。

(病院長 木内 恵子)

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域の保健医療機関と連携して母子保健医療を推進します
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840
電話 0725-56-1220
FAX 0725-56-5682
<https://www.mch.pref.osaka.jp/>